

【授業科目】健康科学概論 Introduction Health Science

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
柴田英治	2年次前期	必修	1	15	講義	あり	卷末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	臨床検査技師は人間の健康とは何か、健康に及ぼす影響にどのようなものがあるか、より健康になるにはどうすればいいのかなどについて理解し、患者及び生活する人々の健康リスクを回避するとともに健康増進に向けてのサポートも求められるであろう。本授業では広い視野から人間の健康をめぐる状況を理解し、医療人としての健康観、世界観を自ら作り上げるための基礎的な考え方を学ばせる。 課題に対するフィードバック方法/毎回の授業で小レポートを書いてもらう。次の授業でその内容について全体的なフィードバックを行い、その後の授業に活かしていく。							
実務経験に関する授業内容	医師としての臨床経験、及び産業医としての実務経験を持つ教員が、臨床検査技師として必要な健康を巡る歴史的出来事、健康の概念的な捉え方、健康を守る社会的な仕組み、日常生活の中に存在する身近な健康課題、臨床検査と作業環境測定・労働生理学的検査との比較などについて視覚的教材、自身の経験、社会的によく知られた事例を交えて指導する。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から医療技術援助ができる」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	①健康の社会的決定要因の背景にある考え方とそれらの要因について説明できる。 ②個人の食事、運動、喫煙、アルコール摂取などの生活習慣が健康に及ぼす影響について説明できる。 ③現代社会における生活空間のいたるところに見られるテクノロジー、住居、クルマ社会が人々の健康に及ぼす影響について説明できる。							
時間外学習に必要な内容・時間	毎回の授業で次の授業での講義該当部分の教科書の章、頁を示す。学生は次の授業までに示された教科書の該当部分を読んでおくこと。(約240分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	<p>第1回 健康の社会的決定要因 世界の人の健康は社会的な諸要因によって決定される側面があることを理解し、健康に関わる問題の解決の仕方を考える</p> <p>第2回 食生活、運動、睡眠と健康 日々の生活に欠かせない食事、栄養摂取、睡眠、運動が健康に及ぼす影響を考え、生活習慣病対策及びより健康になるために必要なことを考える</p> <p>第3回 心の健康とストレス 現代社会がもたらすストレスが心の健康に起こす問題とその対処法を考える</p> <p>第4回 環境と健康 主に化学的環境、物理的環境が健康に及ぼす影響を知り、健康リスク回避のため何をすべきかを考える。</p> <p>第5回 喫煙、アルコール摂取、薬物 個人の生活習慣の中で喫煙、アルコール摂取は問題とされながら依存の問題もあり解決は難しい場合がある。薬物依存の問題と合わせて健康影響とその解決策について考える。</p> <p>第6回 住宅、クルマ社会と健康 私たちの居場所となる住宅、生活に欠かせない移動手段である自動車、さらにクルマ社会と健康との関連について考える。</p> <p>第7回 感染症 新型コロナウイルス感染症に見舞われたこの約4年間は感染症の脅威を改めて感じさせた。ウイルス、細菌、その他病原体による感染症を回避する方策を考える。</p> <p>第8回 健康を守る社会の仕組み 社会で生活する人々の健康を守る法律、制度、仕組みについて学び、私たちはこれらをどのように利用しているのかについて考える。</p>							全て柴田
評価方法 評価基準	授業の最後に課す小レポート 30% 定期試験 70%							
教科書	テキスト健康科学改訂第2版 (南江堂)			参考書等	必要時紹介する			
学生への助言等	この授業は考え方を身につけるためのものです。重要な事項を記憶することは必要ですが、それらを材料にしてどのように考えるかについてトレーニングしたいと考えています。生活のいろんな場面でそれが健康とどう関わっているのかについて考えてみてください。							